

第 1 回 淡路花博 25 周年事業実行委員会議事録

日 時：令和 6 年 2 月 8 日（木） 13:00～15:00

場 所：淡路夢舞台国際会議場 2F メインホール

出席者：別紙のとおり

司 会：淡路事業課長

<結論>基本計画案については承認された。

いただいた意見については実施計画に向けて検討していくこととなった。

○服部副知事あいさつ

- ・新年早々の能登半島地震の発生でお亡くなりになられた方のご冥福と被災された方の一日も早い生活再建を心よりお祈り申し上げます。
- ・兵庫県としても被災地のニーズに寄り添った息の長い支援をオール兵庫でしっかりと取り組みたい。
- ・阪神淡路大震災で全国各地からの支援をいただいた兵庫県として、創造的復興を遂げてきた教訓、経験をしっかりと兵庫ならではの支援の形に生かしていきたい。
- ・来年は阪神大震災から 30 年の節目であり、震災からの復興を世界に向けて発信する役割を担ったジャパンフローラ 2000 から 25 周年の年を迎える。
- ・会場となった淡路夢舞台は大規模な土取り跡地を花と緑により自然再生させた象徴の地であり、国営明石海峡公園も整備された。
- ・その後、10 年、15 年、20 年の周年事業として「花みどりフェア」を開催し、多くの方々に来場いただいた。
- ・この間に淡路島を取り巻く環境も大きく変化し、島内各地で SDG s の実践活動や新たな観光資源の展開などによりますます交流人口や関係人口が増加した。
- ・さらにコロナ禍を契機として淡路島の魅力に惹かれた企業や人材の流入が増え、令和 4 年の 1 年間には島全体の人口の社会増減が+208 人に転じている。
- ・今回の「花みどりフェア」は、淡路花博が目指した「人と自然の共生」の理念を継承し、持続可能な地域社会の実現に向けた、住民主体の花と緑に関する様々な取り組みをレガシーとして後世に伝えていくきっかけとしていきたい。
- ・2025 年 4 月からは大阪・関西万博が開催され、関西が世界から注目される絶好の機会であり、今回のフェアを万博のイベントと位置付け、淡路島に人の流れを呼び込むブースター機能としての役割を果たせるよう盛り上げていきたい。

○石村委員長あいさつ

- ・淡路花博のジャパンフローラ 2000 からはや 25 年、四半世紀を迎えようとしている。淡路花博は、国際園芸造園博覧会として、この地で「人と自然のコミュニケーション」というテーマで開催された。
- ・淡路島くにうみ協会は、ジャパンフローラ 2000 を開催した団体の後継団体で、淡路花博の理念を継承する「花みどりフェア」の事務局も務めている。淡路島の花と緑豊かな環境づくり、淡路を担う人づくり、活力ある地域づくりなど非常に多くの事業を行っている。
- ・「花みどりフェア」においても、淡路の各施設と連携して毎年実施している「淡路花祭」のノウハウを生かして、より内容の充実を図っていきたい。
- ・2025 年大阪・関西万博の開催にあたり多くの方が関西にお見えになる。イベントだけではなく、淡路島の豊かな自然、食、国生みの島としての歴史文化、人の生活など淡路島のありのままの姿、素晴らしさを世界の人に知っていただき、淡路島に「また来たい」と思っていただけ「花みどりフェア」にしていきたい。
- ・万博の開催に合わせて全島を挙げて行われる「AWAJI 島博」とも連携をして気運の醸成を図っていきたい。

○議事

趣旨説明（中瀬企画委員会委員長）

- ・2023 年 11 月 29 日と 12 月 26 日に企画委員会を開催して基本計画案を策定した。
- ・本日の議論を踏まえ、具体的な実施計画案を 6 月ごろに実行委員会に提示する予定。
- ・身の回りで深刻化する地球規模の環境問題を背景に、SDGs への関心が高まっている。さらに、生物多様性の観点から、世界各地で自生種緑化もトレンド化している。
- ・淡路島を取り巻く環境も変化し、過疎化・少子高齢化の一方で企業人材が多く流入してきている。
- ・20 年経って「花みどりフェア」の理念が定着しはじめ、淡路島では市民団体や NPO の人々が非常に成長してきている。
- ・花みどりフェアで目指す方向性は 4 点ある。①関西・大阪万博で世界に注目される機会と捉え、国内外の来訪者を淡路に呼び込み、「花みどりフェア」の理念を世界に発信する。②メイン会場をベースにサテライト会場を設定し、島の住民・団体の皆で共にフェアを盛り上げる。③企画実施に当たり、地域住民・市民団体・NPO の参画を得て地域での花博の理念共有や次世代への継承を目指す。④「人と自然の共生」をレガシーとして継承発展するとともに、地球規模での温暖化防止や生物多様性の確保を位置づける。

基本計画案説明 小山事業部長

- ・基本計画案に沿って説明

<委員発言要旨>

○淡路ふるさと塾 塾頭 木村委員

- ・メイン会場について「淡路会場」「洲本会場」「南あわじ会場」と書いてあるが、「淡路市会場」「洲本市会場」「南あわじ市会場」と「市」を入れる方がよい。

→（事務局 小山事業部長）各市や企画委員会も含めて検討し、次回の実行委員会の際にお示ししたい。

- ・一番の心配は交通アクセス。自家用車で来られる方が圧倒的に多い。本当は自家用車で来て淡路島の魅力をゆっくり見てほしいが、公共交通機関の方にはできれば便数を増やすことをお願いしたい。

- ・淡路島の国道は生活道路なので、交通渋滞を起こすと島民の生活に大きな影響を与える。その部分で何か手立てや工夫が必要だと思う。

→（事務局 小山事業部長）渋滞の話は、今回、駐車場の用地が非常に少ないという中で事務局としても非常に危惧している。新しい交通手段の検討や交通事業者の方々にどれだけお願いできるかが重要であると考えている。個別に協議や協力をお願いしながら、できるだけツアーなど自家用車でなくても来ていただける部分を作って、渋滞緩和に向けて頑張っていきたい。

- ・花みどりフェアが終わった後の淡路島の様子を描きながら計画をしていきたい。淡路島のテーマは伊弉諾神宮を中心とした国生み神話で、「よみがえりの島」ということが大きな柱になる。死の世界から帰ってきて素戔鳴尊、天照大神という素晴らしい神様になった、元気になってきたという淡路島なので、淡路島に来たら素晴らしい景色になって触れ合って元気になる。そして淡路島の素晴らしい食材を食べて元気になる。淡路島の文化とか人に出会ってさらに元気になる。そのような「よみがえる」、元気になる島だということテーマにすれば、フェアが終わった後でも淡路島のイメージを固定できるのではないか。

→（事務局 小山事業部長）もともと会場自体が関西空港建設のために全くの荒野になった土地を今、緑豊かな地域に復興したよみがえらせた地域。これがもともとはジャパンフローラをつくるきっかけでもあったので、この地域がどのような形で緑に復活させたのかということや島全体の歴史も含めて発信していきたいと考えている。御食国や食についても食に関する職人の方や淡路島の美味しい魅力的な食材を組み合わせたイベントや展示も考えているので、次回の委員会では具体的に説明したい。

○淡路おみなのか 会長 投石委員

- ・国生みの話は本当に淡路島の宝物。こういうイベントをする時は淡路島がどうして国

生み伝承の地になったのかというところをきっちり押さえないといけない。

- ・その関連として御食国があるが、しっかり中身や歴史を勉強してほしい。そのなかで食文化を広めていくことが大事。
 - ・イベントで島が一瞬盛り上がるが、その後が大事。移住者や事業者がどんどん入ってくる中で、淡路のことを本当に知って取り組んでいただけているのかという不安もある。私たち住民は島づくりを自分たちの手で本当に頑張っていけないといけない。
 - ・中瀬先生は島のことをよくご存知なので、企画委員の皆さまにも改めて淡路のことをしっかりと知っていただいた上で企画委員会での企画をお願いしたい。
- （事務局 小山事業部長）「花みどりフェア」はこの時期のイベントの中でも一番はじめにブースター機能として行われると事務局としても考えているので、次々と観光客を呼び込んでいきたい。万博に合わせて行われる「AWAJI 島博」も、「花みどりフェア」が終わってからも万博期間中ずっと開催されるので、その誘客にもつながるように頑張りたい。またその後の後継事業や住民の皆さん方に頑張っていただけるきっかけづくりとなるようなイベントを次回いろいろとご提案したい。
- （企画委員会 中瀬委員長）淡路には 20 年以上関わっているが、いろいろな活動を行っている元気な方々がおられるので、そういった方々に情報を出して、一緒にできるようなところは是非やれないかこれから事務局と詰めていきたい。それと、例えば沼島だけ見ても地形的に面白いこともあるので、そんなところも事務局の中で議論して、淡路島をもっと知りたい人に入ってもらえるようにしたい。
- ・国生みの絵本を描いているが、外国人向けに翻訳したものが最近売れている。特に万博を迎えるに当たり、標記や案内など、外国人に対して多言語に対応していかないといけない。一部の人頑張るのではなく、各市を通じてみんなで楽しんで盛り上げていく機会にしてほしい。
- （事務局 小山事業部長）多言語化はできる限り考えている。デジタルガイドで 4 カ国語対応を行ったり、パンフレットや資料についてもできる限り多言語化を進めたい。スマホなどのデジタルデバイスの進展でできることも合わせて行っていきたい。
- （企画委員会 中瀬委員長）多言語化では、淡路で各国の言語を話せる人がレベル別にバッジを付けて、島の人みんなを迎えるような仕組みを作っても面白いのでは。
- ・住民はやはり交通渋滞が心配。淡路島の道路はこの 25 年間を見てもそんなに整備されていない。自転車道路のないところを自転車が走っているので、これを機会に兵庫県でも淡路島の道路全体を見直していただきたい。

○伊弉諾神宮 宮司 本名委員

- ・淡路島の産業には全国でも優秀なものがたくさんあるが、そのひとつに線香業がある。伊弉諾神宮は今年、神宮に昇格してちょうど 70 年目の節目にあたり、様々な事業を進めているが、そのなかに新しい社務所をつくる計画があり、明治 21 年に築造

された建物を東の方に移築している。この建物を、香りの文化を喧伝するための施設として使いたいと計画を進めている。

- ・淡路島では推古天皇の御代に香木が伝承したという記録があり、そのあと江戸時代後期になって線香業が芽生えてきた。お香の文化は貴族の文化でもあり、日本では重要な文化のひとつであるが、現代ではないがしろにされていると思うので、神宮御宣下70周年の記念事業のひとつとして進めていきたいと考えている。現在、お香道の志野流の蜂谷先生と協議をしながら、できれば来年の大阪・関西万博の期間中に、例えば何曜日だけは正式な聞香会が開くとか、アピールできればと考えているので、そんなことも取り上げていただきたい。
- ・薫寿堂さんも創業130年ということで、新しいお香を開発されたと聞いた。お香の文化を中心に考えていきたいとおっしゃっていたので、そんなところとも相乗りしていきたい。

→（事務局 小山事業部長）

前回は伊弉諾神宮さんが一番サテライト会場で集客いただいた。今回も様々な企画やご協力をいただきたい。そのなかで香りの関係は、特に海外の方は香りに非常に敏感で、非常に大きなコンテンツだと思う。自然素材を生かしたお香であるということは、テーマの範疇だと考えている。淡路島でも香司さんという技能のある方がいらっしゃると思うので、ぜひご協力いただきたいと考えていた。お香体験もぜひご相談させてほしい。体験できるイベントを作っていくということを地域の方々と一緒にやっていくということをフェアの中で行い、フェアが終わった後も日常の体験プログラムあるいは観光資源として残っていけば、末永く使えるコンテンツになっていくと考えている。フェアの先を考えたこういったコンテンツを一緒に作っていきたい。

- ・サテライト会場がたくさんあるが、うまくエリアごとに括って名前をつけていく方が誘導しやすいのではないかな。
- ・駐車場と道路の渋滞は大変な問題。そういうところをうまく解消できるようなことがあれば将来に向けては大変良いと思う。
- ・淡路の人が普通と思っていることは、よそから見れば普通ではない素晴らしいものがたくさんある。ぜひ地域の方にもこの企画に参画していただいて、自分たちの住んでいる場所が非常に素晴らしいいろんなものを持っているということが発信できるような機会になればさらにありがたい。

○山陽電気鉄道株式会社 取締役常務執行役員鉄道事業本部長 増田委員

- ・開催期間がゴールデンウィークを外すのは残念だが、地元の方々の渋滞問題等々を考えると致し方ないなとも思う。
- ・公共交通機関利用へのシフトを促していきたいという説明があったが、経験上、スローガンのように「SDGsだ」と言って公共交通機関利用を促進しても利用してくれな

いのが実情。今後検討していく中で、公共交通機関利用者には何らかのインセンティブを与えるといったようなことも検討できればと思う。

→（事務局 小山事業部長）公共交通機関の皆様方へは例えばオープンドアやその時間帯、結節の時間帯の融通や増便などといったことについて個別にお願いに上がりたい。インセンティブについてはサテライト会場の方とクーポンのお願いなどしているので、例えば公共交通機関の何か証明があれば割引のようなものを依頼するなど、事務局でも知恵を使っていきたい。

○関西エアポート株式会社 渉外本部 地域連携部 部長 北林委員

・前回の花博の際は空港での発信として、化粧室にお花を置いた。前回はコロナに入ってしまった、海外の誘客が期待できないということで途中方針転換もあったと思うが、今回は国内外に効果的に発信するということをかなり書かれている。現時点でどんな発信を考えているか。

→（事務局 小山事業部長）この地域は海外に対する非常に強いコンテンツをたくさん持っているので、そういったものを吸引力としていきたいが、チラシなどは海外には届かないので、インスタなどの SNS 系やツアー造成、インバウンド向けの Web メディア等を活用しようと考えている。また、万博に来られる海外のお客様の多くは関空を使うと思うので、お話のあった化粧室にお花を置くなど、またご相談させていただきたい。万博とセットの広報などを含めて、今後よく調整させていただきたい。

○淡路市 副市長 富永委員

・開催理念の中にある「継承発展」というようなところで、いろんな形でこれまで継承されてきたことがあると思う。今回が最後ということなので、私たち島民が持続可能にずっと続けてこのレガシーを守っていく、継承していく、発展させていくというような意味で、魅力のあるいろんな取り組み、提案等を期待している。

以上